代表質問　区政を

本会議の録画中継を
区議会ホームページでご覧いただけます
http://www.gikai-adachi.jp

想され、件数も増加していくと考えられる。適切に自立を助けていくために、相応の相談体制を構築していくべきと考えるがどうか。

【福祉】①支援が必要でありながら自ら相談に行くことがままならない方がいると認識している。周囲の気づきの仕組みを確立することが急務であるため、ライフライン事業者等との連携が不可欠である。

②国や都、NPO等が行う各種の研修やセミナーへ相談員を積極的に参加させ、相談員のさらなるスキルアップを図り、相談件数の推移を見ながら相談員の増員についても検討し、適切な相談体制を整えていく。

区の北の玄関口にふさわしいまちの創出と地域の活性に期待

【問】①竹ノ塚駅の下り急行線の高架化が完了したが、今年度の工事内容や今後の事業見通しと財源の確保について、区はどのように認識しているのか。

②竹ノ塚駅周辺のまちづくりを進めるためには、都が施工する補助第261号線の事業化が欠かせない。伊興町前沼交差点の問題で、事業認可の見通しがはっきりしないと聞いているが、現在の状況とその見通し、また、区画街路第14号線等、他のまちづくり計画の進捗状況はどうか。

【鉄道立体】①現在、仮設地下通路や地下改札口の掘削、下り緩行線の移設準備を進めている。国の財政状況が厳しい中、今年度は充分な補助金を確保することができた。引き続き、国や都へ要請活動を行い、必要額の確保に努めていく。

②都と連携し、警視庁との協議を続けた結果、交差点南側の区道から尾竹橋通りへの右折について、おおむねの了解が得られた。引き続き早期着手に向け都と協力していく。

区画街路第14号線は、約8割の用地取得を終えており、引き続き取得を進めていく。東口を含めた周辺のまちづくりは、関係機関との勉強会の設置に向けて準備を進めている。

文教大学開学に伴う学生の通学ルートの検討を

【問】①谷塚駅からの徒歩ルートの検討状況は。

②竹ノ塚駅等、区内鉄道駅からの通学ルートの検討状況は。

③毛長川の環境向上も必要であるが、その検討状況は。

【市街地】①短期的には開学時期に合わせた人道橋設置を目指しており、中長期的には水神橋の架け替えと護岸沿い遊歩道の整備に向け、河川管理者である都及び埼玉県に要望書を提出する予定である。

②バス事業者から、竹ノ塚駅東口からのルートが提案されているほか、六町駅等その他の駅についても協議を進めている。あわせて、自転車シェアリングの実現を目指し調査を進め、大学との協議を実施していく。

③毛長川周辺の環境向上は、まずは開学時期までに大学周辺の親水護岸整備が完成するよう都と調整を進めている。

待機児童ゼロに向け課題解消を

【問】現在、待機児童の分析を進めていると思うが、そこで明らかになった課題は。今後どのような対策を進めていくのか。

【子ども】課題としては、0歳児から2歳児の待機児童が全体の9割を超えていること、綾瀬地域ではフルタイム就労世帯の待機児童が増えており、北綾瀬駅周辺のマンション建設等により、今後も新たな需要が見込まれることが挙げられる。

対応策として、まず、北綾瀬駅周辺、東和・中川地域で整備予定の小規模保育室を認可保育所に切り替え、平成30年4月開設を目途に公募を開始した。

現在、待機児童解消アクション・プランの改定作業を進めており、保育需要の見込みとそれに応じた施設整備計画の策定とその実現に全力を挙げていく。

保育士の確保への取組みを

【問】保育士の確保策について、これまでの取組みをどう評価しているか。今後の対策はどうか。

【子ども】保育士等住居借上げ支援事業を平成28年1月に急遽実施した。3カ月間で25人の実績があったことからも事業は有効と判断しており継続していく。

また、今年度は全国でも初めての保育士奨学金返済支援補助を実施し、さらに潜在保育士を再就職につなげるセミナーにおいて、実習のあっせんや再就職時の補助等の充実を図るとともに、他の機関の実施する講座や貸付情報等も提供していく。

あわせて、新卒者向けには、区内大学等との連携による就職相談会の実施により就職活動への支援等も積極的に取り組むなど、より一層の人材確保に努めていく。

足立区議会公明党

戦略的な政策で希望がゆきわたる足立区へ！

公明党　くぼた美幸議員

区長が描く区の未来は

【問】福祉需要の増大や民生費の伸び、納税者の減少等、将来の区を取り巻く状況は厳しさを増すものと想定されるが、果断な改革を恐れない職員と区民との連帯により、行動の輪を広げ、機動力ある政策で諸課題に取り組むことを望む。区長は区の未来をどのように描くのか。目指す具体的な将来像について伺う。

【区長】「協創力でつくる　活力にあふれ　進化し続ける　ひと・まち足立」という将来像を実現するにあたっては、現在区を取り巻く人口の偏り、この影響力を極力抑えていくことが非常に重要と考えている。このたびの基本計画等も、区の弱点をきちんと克服に努めていくことと、マイナスをゼロにするだけでなく、魅力を創っていくプラス思考をきちんと織り込み、活力や進化の具現化を考えている。

エリアデザインには地域の声を

【問】①竹の塚エリアデザインの今後の検討課題として、竹ノ塚駅東西が一体となる回遊性の高いまちづくりがあるが、地域要望等も把握しながら進めていく必要があると考える。どのように取り組むのか見解を伺う。

②文教大学の花畑移転に際し、大学及び花畑団地自治会より、谷塚駅からの安全な歩行導線確保のため、毛長川に人道橋の設置要望が出されている。徒歩ルートの検討状況はどうか。地域の利便性が高まり、通学の安全を確保する点からも、人道橋を設置すべきと思うが見解を伺う。

また、その際のスケジュールについても、あわせて伺う。

【政策経営】①鉄道高架化の効果を最大限に生かし、駅東西が一体となった回遊性の高いまちづくりを進めていきたいと考える。駅東口の都市再生機構住宅や周辺公有地を有効活用し、区の北の玄関に相応しい計画づくりとともに、計画を実現できる民間事業者を誘導していく。計画作成の際には、区が考える「まちの強み」や「まちづくりを考える上での視点」等をお示しし、地元説明会等を通じて幅広く地域と意見交換を行いながら、丁寧に進めていく。

【市街地】②文教大学や地元まちづくり協議会、埼玉県等と安全な歩行導線を協議しており、開学時期までの完成を目指して人道橋設置を進めていく。

おおむね、平成28年度に位置決定のための調査、29年度に詳細設計、30年度から2カ年で工事実施を予定している。

想定外の「車中泊」検証が必要

【問】熊本地震では、行政が把握できない車中泊が激増した。被災者の日々の状況、実態をつかみきれなかった現状が報告されている。地域防災計画で車中泊を想定していない区としても、公的避難所以外で過ごす人への支援のあり方について検証が必要と思うが見解を伺う。

【危機管理】基本的に区災害対策本部が掌握する避難所に誘導する対応としてきたが、今後、新たな対策を講ずるべき課題であると考えている。ご提案のとおり、早急に検討し、次期地域防災計画に反映させていく。

地域に介護支援への参加を周知

【問】介護要支援者に対する介護予防・日常生活支援総合事業はNPO、ボランティア等の地域資源を活用した事業である。対象者への支援は資格が無くてもできるため、広く区民に周知するとともに、意識ある区民が支援に参加できるよう取り組むべきと思うが見解を伺う。

【福祉】今後の高齢者の増加に対して担い手の確保も大きな課題と考えている。地域支え合い推進員による掘り起こしだけでなく、絆のあんしん協力員や、